



丸山はるみ いきいき通信 No.12

道政報告
2024年5月号



公費負担の抜本的増額で「国民健康保険料、値上げ抑えよ



第1回定例会
予算特別委員会

国民健康保険制度が都道府県単位化に移行してから7年目を迎えます。北海道は次期国保運営方針案で保険料の全道統一化を明記しました。丸山道議は3月12日の予算特別委員会で国保加入者の負担増につながらないか。保険料率の推移や保険料増加の影響、道の認識等を質しました。

丸山道議の質問で道の標準保険料率が所得割率は2018年の11・51%から2023年は12・32%に。均等割額は68、850円から76、082円と増加していることがわかりました。さらには標準保険料率通りに改訂していくと2024年度の保険料で道内8割の自治体が値上げする試算となり、丸山道議はその影響と対策について道の認識を問いました。道は多くの市町村で保険料が上昇するとの認識を示しつつ財政

多くの市町村で保険料率が引きあがる試算

基盤強化のための支援を国に求めていくと、国まかせの姿勢です。

道の責任で一部負担金免除の制度周知徹底を

災害等による資産の重大な損害や失業等により収入が著しく減少した場合には医療機関への一部負担金を減額・免除・支払猶予する措置があります。2022年度は16市町村で196件の実績がありますが、半数以上が東日本大震災関連です。コロナ禍と物価高騰による影響が長期化する中で減免実績が広がっています。丸山道議は周知を市町村に任せておくのではなく北海道が率先して利用促進のインシニアチブをとるべきと迫りました。道は市町村に対してポスター掲示等の依頼と共に道の広報媒体など様々な機会を活用して制度周知に努めると答えました。

困難を抱える女性支援 自立に向けた支援の充実を



3月12日予算特別委員会で質問する丸山はるみ道議

配偶者暴力被害者支援事業には「相談対応」「一時保護」「自立支援」がありますが、スマホ等通信機器類の持ち込みに制限があるなどが障害になり、施設利用をためらう事例があります。

いま道内では、7振興局で8つの民間団体にDV被害者等の一時保護を委託しています。道は2028年度までに14全ての振興局管内で困難女性支援を行う民間団体を立ち上げる計画です。

丸山道議は計画期間中の見直しと職員研修の改善・支援事業の活用における施設制限の見直し等を求めて質問しました。

道は「困難な問題を抱える女性の状況は多様で、自立に向けた支援の提供が求められる。関係機関との連携を密にして、利用者ニーズを踏まえた支援のあり方について検討を進める」と答えました。

保育士不足～急ぎ充足と根本的改善を

保育士不足が深刻です。今年度新規に保育士・保育所支援事業が予算化されました。主な内容は「潜在保育士を掘り起こし就労につなげ、就業後のフォローアップを行う等のキャリアアドバイザーを配置する。労働時間や休暇制度などの働き方改善、ITCを活用した業務軽減等の助言や指導を行うコンサルタントを派遣する」というものです。

処遇改善でも国の公定価格改定に対応する「子どものための教育・保育給付費負担金」が予算化されました。

一方76年ぶりに職員配置基準が改定され、新年度から保育士一人あたりの児童数は4・5歳児で30人から25人に。3歳児は20人から15人になります。丸山道議は「改善自体は歓迎するが、基準としてはまだ不十分。引き続き配置基準の見直しとそれに見合った保育士の充足を」と道の認識と取組を質しました。

道は、運営実態や地域の実情に即した公定価格の設定について引き続き国に要望していくと答えました。
(3月12日予算特別委員会)



進まない水道管の更新・耐震化 要因を明らかにし、対策を！



道は水道管の更新や耐震化が進まない主要因を拡大な地域、技術職員の確保が課題と言います。しかし事業費の3分の2または4分の3が事業主体（市町村）の負担になる制度設計では市町村負担が大きすぎて更新が進まない大きな要因であることを丸山道議は指摘しました。「水道管更新にとって欠く事の

出来ない市町村負担の軽減にどう取り組むのか。国に、より強く要望していくべきではないか」丸山道議の追及に道は「補助対象範囲の拡大や採択要件の緩和をこれまでも国に要請してきているが、着実に耐震化を進めていくよう事業者の負担軽減に向けて支援制度の拡充を強く求めています」と答弁しました。

能登半島地震では水道管の破損で消火栓から給水できず消火活動に支障が出ました。道内市町村の重要給水施設につながる管路での耐震適合は32%と依然5割に満たない現状です。丸山道議は第一回定例会2月21日の冒頭先議で、更新遅れの要因と更新加速化について道の認識を質しました。

「あいきた」で、出会う犬や猫が人生のパートナーになるかも



「あいきた」は愛護センターの「愛」と北海道の「北」を表したセンターの愛称です。ユニットハウスを利

用した建物は切り離し可能。災害発生時には被災地に移動できます。上部に設置のソーラーパネルで電気を賄って、空調もバッチリ。收容される犬や猫が快適に過ごせます。内部に用意されたケージは猫用が多く、担当者によれば、犬は比較的早く貰い手が見つかるそうです。悲しくつらい思いをする犬や猫がなくなる、といいですね。



江別市にある酪農学園大学のキャンパス内に北海道立動物愛護センターが建設されました。4月から稼働されるセンターの開所式に参加してきました。

街頭で「ラピダス進出」への懸念を訴える

日本共産党道議団は、昨年度の道議会報告をパンフレットにまとめました。千歳市に建設が進む次世代半導体企業「ラピダス」。経済界やマスコミは期待一色です。しかし、大量に消費される電力や水資源の問題、排出される化学物質への懸念は解消されていません。この間の議会質問をまとめました。丸山、真下両道議のインタビュー記事も掲載していることを紹介すると、通行人がパンフレットを手取る場面も見られました。



お困りごと相談お受けします

- 月曜日～金曜日
- 午前9時30分～午後3時30分



丸山はるみ事務所

小樽市稲穂1-12-205
ステーションハイツ

☎64-5591 FAX64-5592

保育園、卒園おめでとう！



はじける笑顔と、子どもたちの成長に感動する涙。命の輝きに感動しました。

勤医協小樽余市在宅総合センターでお話を聞きました

3年に一度の介護報酬の改定で、訪問介護の基本報酬が4月から引き下げられました。

厚労省は訪問介護の利益率が他の介護サービスより高いと説明していますが、効率的に訪問できる集合住宅併設型や都市部の大手事業所が平均値を引き上げているからです。

高橋純一郎センター長は、「小樽のような地方都市での訪問介護は、訪問先への移動に時間や燃料代がかかる。ところが介護保険でカバーされないため事業所の工夫で手当てしているのが実態。また、訪問先では一人での対応のため、経験と専門性が要求されるが、その責任に見合った報酬とは到底言えない」と話しました。家で暮らす高齢者の生活を支える介護保険制度に変える必要があると感じました。



高橋純一郎センター長と懇談する丸山はるみ道議